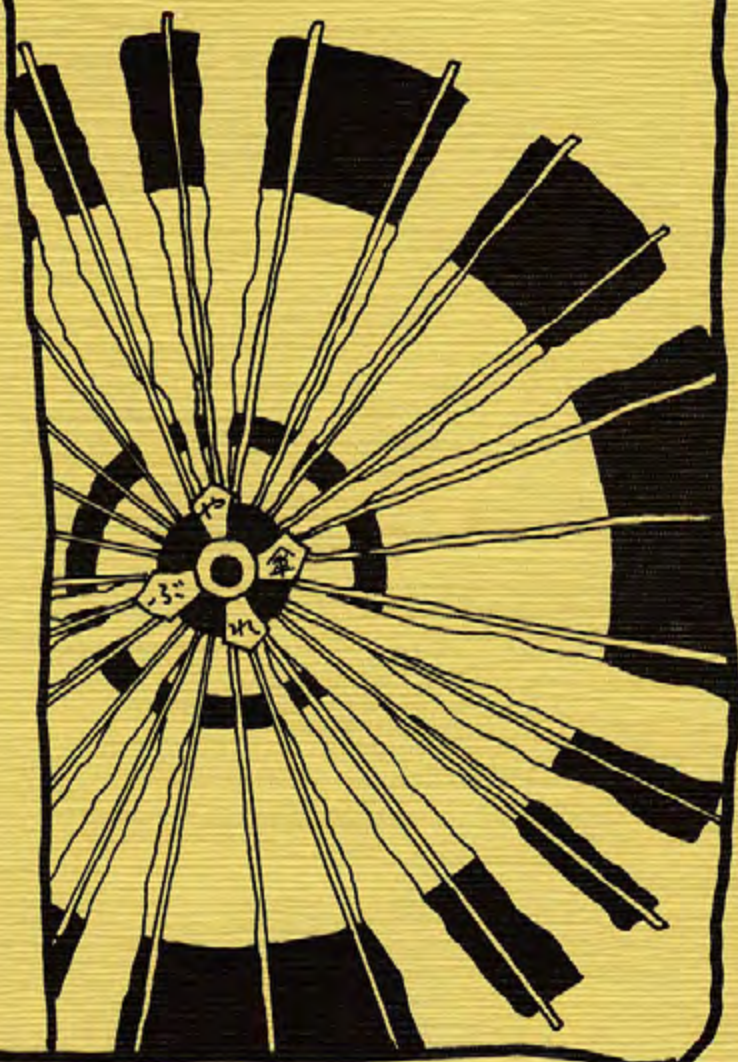


やぶれ傘



一〇二号

二〇一八年四月

畑みちはすこしのほりに蝶の昼	根橋宏次
駐車場の出口入り口花はこべ	きくちきみえ
タクシーが露地よりぬつと鳥曇	大島英昭
舟あまた湖面に花の塵あまた	藤井美晴
くさり付きコップで受ける春の水	丑久保勲
暖かし社殿の右の力石	瀬島洒望
土筆摘む十本までは数へつつ	廣瀬雅男
春の昼広口瓶に飴色々	青谷小枝
しばらくは硝子戸越しの蝶の昼	安藤久美子
花疲れいも羊羹を口にする	白石正躬
下萌や目玉ばかりの稚魚の群	有賀昌子
牛小屋の屋根に鳥が春の昼	天野美登里
櫓の木の巢箱夕日の正面に	渡邊孝彦
城跡の眼下にひらけ春の湖	秋山信行
春の日に泣きわめく子の「我在り」と	松村光典

抄 集 句 傘 れ ぶ や

大崎紀夫選

啓蟄の玻璃に揺れる枝映りけり	神山市実
橋脚を水さかのぼる里の春	黒澤次郎
ひとりこと増えてひとりや日の永し	小巻若菜
春眠や隣家が回す洗濯機	小山陽子
駅を出て春三日月を真向ひに	齋藤朋子
二坪を耕しをれば土匂ふ	佐藤稻子
探梅やいつか重たき靴の泥	高橋均
雪晴れや垂るる半は何拍子	貫井照子
如月の今日は卒寿の誕生日	橋本美代
雪残る上に淡雪今朝の道	山本久枝
薄氷の結ばれしとも解けしとも	浅嶋肇
卒業す筒もてお面小手ありし	安齋正蔵
カーテンをすばつと開ける雪の朝	泉一九
春めくや先ずは薬缶を磨き上げ	岩藤礼子
蛤に乗りしまめ雛段の端	奥田温子

オキザリス

大崎紀夫

春の砂よく鳴き漁師らは昼寝

柄を肩に当てて蛭を搔いてゐる

兜太逝く

春の日向にコツペパン食ひをれば

金網に人抜ける穴オキザリス

昼の月土佐の蛙が鳴いてゐる

亀の鳴く昼なり子らは校庭に
マンサクが咲いて農家の庭暮れて
昼過ぎの雀の槍に腰おろし
花ミモザ窓枠赤く塗られぬる
野仏の台座のすみれ咲きにけり
海あをき日のたんぽぽはぎんぎん黄
ゆたゆたと舟の水脈くる夜のさくら

蝶の昼

根橋宏次

浮く亀を橋の上より寒明くる
うすらひのところどころに水乗つて
ヒヤシンスタまには入る喫茶店
盆梅の前にホースがながながと
かすむ眼の方へまわりし春の蠅
朧夜の抜かれて太るコルク栓
にはとりのあひだをとほりゆく日永
遠足の点呼は五十音順に
畑みちはすこしのぼりに蝶の昼
注文の前に出る水亀鳴けり

花はこべ

きくちきみえ

水つぽい雪を欄干より落とす
掃除機に豆の入る音春立つ日
薄氷の穴の形の空のいろ
潮の香のしてきて目刺焼き上がる
春風が螺旋階段あがり来る
雑巾に赤い縫い糸水温む
草萌えにこぼしてゐたるにぎりめし
茄玉子ベンチの角にあてにけり
朧夜の工事現場の駐車場
駐車場の出口入り口花はこべ

鳥 曇

大島英昭

お稲荷のあたりに枕ほどの雪
見当を付けて左へうらけし
足音に抜かるるつもり野蒜の芽
昔からここは竹藪冴えかへる
根こそぎのままの榛の木水ぬるむ
銀行の通りのどけし工事中
ここからは下つで登り花すもも
あを麦の中を通つてゆくことに
トラツクのハザードランプ草萌ゆる
タクシーが露地よりぬつと鳥曇

花の塵

藤井美晴

暖かい雨が床屋のクルクルへ
三月の日なかを白いジープ来る
ミモザ咲く「小学校西」停留所
芽吹く木の向うの海に日が沈む
紅椿落つ井戸端の苔の上
鋭角に切り剣山へ桃の花
陸橋の脚のぐるりに黄水仙
右端に武_ぶ甲_こ山_うが見えて鳥雲に
酒盛りのブルーシートへ桜散る
舟あまた湖面に花の塵あまた

春の水

丑久保勲

コンビニの前の軽トラ焼き芋屋
電柱の影まつさらな雪の畑
探梅へ迷はずに乗る横須賀線
サイドミラーに太陽ぽつり春隣
広小路より歩き来て寒桜
晴れてゐる北西の空冴返る
かすみゐる銀座のビルを八重洲より
啓蟄の材木にほふ材木屋
大枝垂桜しだるる庁舎裏
くさり付きコップで受ける春の水

力 石

瀬島洒望

薄氷の上に和毛（にこげ）の乗りゐたる
寝転んで子猫とじやれる昼下がり
薄濁る流れに日差し猫柳
ミモザ咲く家引つ越しのさなかなり
蓬餅啜へて叩くキーボード
梅八分脇往還の不動堂
カステラと金平糖を雛段に
大皿に巴里の市街図ひな祭り
うららかなや番傘開く曲芸師
暖かし社殿の右の力石

土筆摘む

廣瀬雅男

校舎より歌の聞こゆる二月尽
三日月のあるだけの空冴え返る
お社の裏の日溜り露の臺
新聞のクロスワードを春炬燵
剪定の音の聞こえる小昼かな
土筆摘む十本までは数へつつ
木洩れ日の揺るるあたりに黄水仙
舞台まで春日の届く神楽殿
辛夷咲く花の向うに赤城山
すべり台滑り落ちたる春落葉

干
鰈

青谷小枝

こころまで雪がと指して垣繕ふ
春浅し魚干す棚に日と風と
民宿の裏の空き地に干鰈
島裏は海へ崩れて藪椿
青き踏む上着のボタンみな外し
花八分登りきつたる磴百段
オブラートくるんくるんと反りて春
あやとりの橋がタワーに花ゆすら
春の昼広口瓶に飴色々
日脚伸ぶバスの腹から旅鞆

蝶の昼

安藤久美子

鬼の面付き年の豆買ふことに
きんぴらの匂ひ漂ふ浅き春
春水に少し揺れぬる顔の皺
花柄のトレーに春のサラダかな
雛飾り壇の下なるがらんどろ
春昼をとろりと千手観音像
かくれんぼする啓蟄のこもれびに
蔦の芽の目立ち始めた喫茶店
しばらくは硝子戸越しの蝶の昼
土筆摘む明日の予定はまだ未定

花疲れ

白石正躬

雪の夜の昏さのなかの雪の音
雪雫トタンにあたる音続く
息づかひ荒く男の蓮根掘り
大釜で茹でるこんにやく日脚伸ば
乾びたる畑のはしの露の臺
電車待つ人にうすら日冴え返る
寺の藪を出てゐる雉のありにけり
向う岸の木立を映し水温む
花疲れいも羊羹を口にする
目が合へば納屋から逃げるはらみ猫

下 萌

有賀昌子

ふんはりと二月の小雪頬にくる
寒明ける動かぬ鯉に手を打つて
節分の生ゆば箸をよく滑る
パイ菓子のぱりつと焼けて寒明ける
箱をあければ齢を知らぬ雛のかほ
三月の風に赤べこ首を振り
ぱりぱりと薄氷踏んでカメラマン
蓬餅二つ並んで奥つ城に
たこ焼きのくるりくるりと梅三分
下萌や目玉ばかりの稚魚の群

春の昼

天野美登里

縁側の椅子に日の差す春はじめ
明日葉や風は海より吹ききたる
橋脚にぶつかると波や寒戻る
浮橋の揺れ続きをり春の雪
蹲踞の水あたらしき黄水仙
牛小屋の屋根に鳥が春の昼
川むかうの声届きけり初桜
ダム底に石垣のこる山桜
雀の子ふいにフェンスへ表れる
朝の日のあつまる窓に春の蠅

巢箱

渡邊孝彦

春寒にルーペで羊齒の胞子見て
囀りは窟やぐらの上の雑木より
坂上で道折れて行き枝垂れ梅
檜の木の巢箱夕日の正面に
紅梅が咲いてつつかい棒が朽ちて
ゆりの木の芽吹き乳白色の空
ぬか雨の辛夷を見たり道すがら
竹の秋向きさまざまな無縁仏
食卓を拭けばきゆつきゆと鳴る弥生
青き踏み鉄塔の立つ丘に出る

春の湖

秋山信行

当選は孫にもらひし年賀状
大根の抜かれし穴のそのままに
蠟梅の角を曲がりて不動堂
軒下に鳩の寄りそふ雪もよひ
鍬の柄のゆるぶ三寒四温かな
雪明り部活をへし子の戻る
鳩のきて雀もきたる雪間かな
啓蟄の畑に支柱のちらほらと
沈丁のにほへる先に阿弥陀堂
城跡の眼下にひらけ春の湖

春の日

松村光典

おれの春とばかりに吠え走る犬
襟立てて二月を歩く六本木
如月の陽射し背中にピザを食ふ
春嵐いつもの鳩は現れず
花の宴トイレの列の長きこと
ペダル漕ぎ花見行脚と浮かれけり
さくら散る頭に袖に盃に
杖ついて歩く人あり花の降る
春の日に泣きわめく子の「我在り」と
春の日を句作につぶす爺あり

◇ 5月・6月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
5月	1日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	國保八江
	1日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	瀬島 孟
	2日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	4日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	19日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	26日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	26日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
6月	1日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	1日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン4	丑久保 勲
	4日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	5日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	國保八江
	5日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	瀬島 孟
	16日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	17日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	平林寺	丑久保 勲
	23日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	23日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	29日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター

〔注〕 ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

5月のNHK教室は6月29日(金)へ振り替え。

6月17日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR武蔵野線・

北新豊駅改札口。東武・東上線は新豊台駅。

吟行地は平林寺。句会場は武蔵浦和コミセン・第7集会室。

◎連絡先

瀬島 孟 ☎ 048-862-2757	藤井美晴 ☎ 0422-55-2733
大島英昭 ☎ 048-582-5041	WEP編集室 ☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男 ☎ 048-443-7522	浦和コミセン ☎ 048-887-6565
丑久保 勲 ☎ 048-853-3856	WEP俳句教室 WEP編集室へ